

教団新報

定価 1部144円(本体133円+共206円)
 予約購読料 1年分 千共 5,150円
 紙代のみ 3,600円
 振替 00140-9-145275

本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
 FAX 03(3207)3918
 URL http://uccj.org

発行人 秋山 徹
 編集主筆 渡邊 義彦
 印刷所 株式会社きかんし



札幌北部教会(北海教区)

さて、十一人の弟子たちはガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。そして、イエスに会い、ひれ伏した。しかし、疑う者もいた。イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしろ。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

《マタイによる福音書 28章16～20節》

メッセージ

すべての民をわたしの弟子に

マタイによる福音書28章16～20節



久世そらち

すべての民

「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしろ」と命じられたとき、弟子たちは戸惑い、むしろ反発すら覚えたことでしょう。

「すべての民」とは「すべての民族」という意味です。復活の主イエス・

キリストは、「ユダヤ人だけであって、他民族つまり異邦人たちのところに行くと、彼らをあなたがたと同じ仲間としなさい」と言われたのです。

ここにいる弟子たちは皆、ユダヤ人です。モー

ついて自分たちこそは神の民であると自覚し、そのしるしとして律法を重んじてきたユダヤ人は、その裏返しとしてユダヤ人以外の諸民族つまり「異邦人」は神から遠いものとしてきました。そこには、長い歴史の中で

ユダヤ人が次々に他民族の侵略を受け支配され圧迫されてきたつらく苦しい記憶も重なっています。異邦人を隔て退ける感情を、弟子たちもまた心に携えていたでしょう。

ネカティブな言葉を記しています(5・47、6・32、10・5など)。こうした言葉を、弟子たちはむ

しる深くうなずいて受け入れていたことでしょう。しかし、よみがえった

主イエス・キリストは、すべての民族をわたしの弟子に」と命じました。「すべての民族」には、これ

までユダヤ人と敵対し、苦しめてきた人々も含まれなければなりません。エジプト人、カルデア人、エドム人、アンモン人、ギリシア人、ローマ人…。こうした人々が、自分たちと等しい弟子になるのだと言われ、ユダヤ人である弟子たちが戸惑わなかったはずはありません。

「行って、すべての民を弟子に」との主の命令は、つまり「あなたたちは、これまで仲間だなどとは思っていませんでしたあの連中と、等しい立場の仲間となるのだ」ということとほかなりません。「伝道」とは、今まで仲間だと思っていなかった人々といっしょになることなのです。

弟子たち

このときまた弟子たちは「あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」(20節)と命じられます。弟子たちは、主から言い渡されたすべてを、新しく仲間となる人々とも分かち合わなければならない。

モーセ以来の律法はユダヤ人だけに命じられた掟であり、それゆえにそれを守ることは他の民族とは立場の異なる「神の民」のしるしでした。けれどもこれからは、どの民族出身であってもキリストの弟子のしるしを等しく共有するのです。先に従ったユダヤ人だからといって特別な立場は与えられないのです。

弟子たちにしても、そんなに確かな者たちではありませんでした。16節には彼らのことをわざわざ「十一人の弟子たち」と紹介しています。本来は「十二人の弟子たち」で

ユダヤ人ではありません。残った弟子たちは、よみがえった主イエス・キリストをひれ伏して拝み、神として礼拝しました。たが、「疑う者もいた」(17節)のです。原文は、疑ったのは弟子の一部だけではなく、弟子たち皆が疑う者であった、と読むことができます。読む人も、よみがえった主

イエス・キリストに出会い、礼拝しているその中にさえ、なお疑いが含まれているのです。

欠けと疑いを抱えた弟子たち、不完全で確かな者たちが、それにもかかわらず伝道へと促されました。このような彼らを主は用い導いて、隔てられ、退け合い、敵対していた者たちがそれでもいっしょになっていく歩みへと導いたのです。

主のみわざ

わたしたちは、今なお不完全で不確かな者たちにすぎません。それでも主は、わたしたちが隔てを乗り越えていっしょに歩み出すように命じています。いや、主はすでにわたしたちをそのように導いています。

40年以上前から、北海教区は「宣教の総合化」を掲げてきました。これは北海教区の諸教会の厳

しく困難な経験の中から生み出されてきた考え方で、精密な学問的定義がなされているわけではなく、むしろ、わかりやすく、つなげていく、ということでしょうか。

北海教区では、これまで「宣教の総合化」として、たとえば、わたした

ちの生活のすべてを主の福音にかかわるものとして受け止めるのか、個々の教会の働きを教区の皆の課題として共に担うのか、「伝道」「社会問題」「礼拝」「牧会」などと分けてとらえられがちな具体的な宣教の課題をつなぐことができるのか、部分的な営みにすぎませんか。しかし、主はそれらをいっしょにしてくださるのです。

また実践が積み重ねられてきました。

その前提には、「隔てられ、連っているように見える教会の営みも、主によってつながっている」、「それだけでは不完全で不十分な営みも、主はそれをつなげて用いてくださる」という、主の御業への信頼があります。わたしたちが携わることができるとは、部分的な営みにすぎません。しかし、主はそれらをいっしょにしてくださるのです。

子たちの群れもまた、そのような主の御手のうちに置かれていることを信じます。「すべての民を弟子に」と命じられた主キリストは、不完全で確かなわたしたちをも用い導いて、隔てられていたものをいっしょにしてくださいます。主は、そのような道をたどるわたしたちと、世の終わりまで共にいてくださるのです。

(教団総会副議長)
 札幌北部教会牧師

宣教師からの声

沖縄キリスト教学院の創設と二人の宣教師

金 永秀

(沖縄キリスト教学院宗教部長)

ウォルター・W・クライダー宣教師



前田伊都子宣教師



1957年、沖縄戦から12年を経て沖縄キリスト教学院(沖縄キリスト教短期大学・沖縄キリスト教学院大学)は、戦争の悲惨さを体験した沖縄キリスト者たちの、平和な島を作る担い手を輩出したいという願いから誕生した。沖縄では琉球大学に次いで2番目に創設された大学である。

いわゆる外国ミッションボードによって建てられた大学ではない。しかし、その創設のために尽力した二人の宣教師なくして、この学院の誕生は難しかったであろう。一人はウォルター・W・クライダー(Walter W. Kridler)宣教師(米国メソジスト教会派遣)、一人は前田伊都子宣教師(米ディサイプルチャーチ派遣)である。初代理事長・学長の仲里朝章牧師が学院の精神的な指導者であったが、クライダー宣教師は財政面を支え、前田宣教師は教務を担当する形で学院は出発することができた。



クライダー宣教師は、1920年ボス

トン大学神学大学院でM.Aを取得、翌年来日した。東京には22年まで、長崎で35年まで宣教活動をおこなった。一時帰国し材木商として財を成したが、1955年に沖縄で宣教師としての活動を再開する。1960年まで沖縄の伝道と沖縄キリスト教学院の設立・維持のために多大な貢献をした。特に経済的な面で際立っている。

沖縄キリスト教学院は、設立当初沖縄キリスト教団(現日本基督教団)首里教会の会堂を校舎としたが、その後、首里城公園の一角に新校舎を建設した(現在は西原町に移転)。その校舎建設のために、クライダー宣教師は材木商として貯めてきた1万ドルを捧げたのであった。当時の沖縄キリスト教団の経済力では、学校を創設することは不可能であったが、クライダー宣教師はIBC(International Board Committee、内外協力会)を通じてアメリカの諸教会に新校舎建設のための献金を呼びかけた。その結果、合同メソジスト教会、チャーチ・オブ・クライスト、ユナイテッドチャーチの3教会から1万ドルずつ、計3万ドルの援助を受けることができた。

師は帰国後、1965年に逝去した。



前田伊都子宣教師は、1918年東京生まれの日本人であった。仏教色の濃い家庭に育ったが、東京の聖学院でキリスト者となり、恩師のジェシー・トラウト(Jessie Trout)の感化を受けて献身する。卒業後、聖学院と恵泉女学園で教鞭をとった後に渡米し、イースタン・メノナイト・カレッジ(College of the Bible)で修学した後、米ディサイプル教会の宣教師に任命されたのである。

1956年に沖縄に派遣され、伝道と共に沖縄キリスト教学院設立の仕事に従事することになる。自身が聖学院で受けた高度な教育を学生たちに提供するために奮闘した。カリキュラムの作成、教育を担当する教員の雇用等、その教育的功績は大きい。教室以外でも、学生たちの行儀や立ち振る舞い、エチケットや言葉遣いにいたるまで気を配り、就職の面接試験にも同行するほど熱心であっ

た。学生たちは「ニコガミ先生」と呼んだ。ニコニコしながらもガミガミと叱るということであろう。学生たちは、その愛と厳しきで成長したと言う。

その他、教会説教、婦人会の指導に情熱を傾けた。沖縄宣教の後、ブラジルにも派遣され2007年に米国で逝去した。



クライダー、前田両宣教師の大きな教育的功績と共に考えさせられるのは、米軍基地との関係である。彼らが活動した50、60年代は、土地収奪と基地拡張の時代でもあった。当時の教え子たちから、二人が「米軍のベース(基地)に寄りかかっていた」と指摘の声もある。学校整備や学生たちへの奨学金についても、学生たちを米軍のチャペルに連れて行って献金を要請することもあったと言う。

キリスト教教育・宣教と基地の関係の問題は、その時代から沖縄で問われ続けている。

(Kyodan Newsletter より)

問い合わせ TEL 0428-0428
0428-12283、FAX 0428-122123
17 minoisnaiso@wish.ocn.ne.jp

- ◎ 応募方法 ①所属教会牧師の推薦状、②履歴書、③健康診断書を添え、「このいえ信愛荘」へ申込み。〒198-0052 東京都青梅市長淵2-687-12
- ◎ 問い合わせ TEL 0428-12212283、FAX 0428-122123
- ◎ 問い合わせ 17 minoisnaiso@wish.ocn.ne.jp

日本基督教団隠退教職ホーム「このいえ信愛荘」

- ◇ 公募 ◇
- ◎ エキューメンカル奨学金
- ◎ 支給額 上限36万円、19年7月迄に送金
- ◎ 申請資格 ＊アジア地域等より留学中のキリスト者、＊日本で研究・研修に従事している者、＊教団またはKCCJの教会に出席する者、＊日本・母国にて宣教協力貢献の志を持つ者
- ◎ 応募期限 5月7日必着、書類選考あり
- ＊詳細は、教団ホームページ、または世界宣教部(ecumeni-c@uccj.org Tel 03-3202-0544)

越谷教会では毎月礼拝後誕生会をしている。1月は、私の妻の誕生日。妻は誕生会で「日野原重明先生の『長生きすりゃいいってもんじゃない』(多湖輝共著)で、先生は、夫婦は50点と50点で合わせて100点であれば良いと言った。秀雄君は60点で私が40点、合計100点だ」と言ったら、司会の豊川昭夫役員(常議員)が「由美子先生60点、石橋先生40点ではないか」と言った。

役員会で、翌日の新年合同礼拝の準備について話し合った。だ。しかし、100点に対して

私「40点牧師だから、明日は礼拝が終わったら早く帰る」、役員「それは困ります。石橋先生に会いたいという人も来ます」、私「40点牧師に会いたい人などい

「隠退教師を支える運動」推進員を引き受け2年、100円献金で隠退教師の方々を支えることに力を尽くす。

父が召された翌年のイースターには、秀子さんの中学生の孫が受洗を決心し、4歳の弟も幼児受洗を受け、そして、長年折ってきた夫も孫たちと共に受洗した。すべてが神の御計画であることがわかった。

父が召されたのは、砂塚さんが教区の婦人部委員長として最後の務めであった教区報告会を終えた次の日だった。

秀子さんがはじめてキリスト教と出会ったのは、高校生まで育った長野・生坂においでだった。生家で一緒に暮らすことになった小学校の先生であった親戚のお姉さんが、近くの寺を借りて教会学校を始めた。松本から訪ねてくる宣教師と一緒に姉さんが熱心に祈っているのを襖の陰から見ていた。4歳の時、はじめてのクリスマス礼拝で挨拶した言葉を今も覚えている。

高校を卒業してから東京で和文タイピストとして働いた。同僚に誘われ教会に通ったが、そのときには洗礼には

砂塚 秀子さん

神の御計画の中にいる



1944年、長野県生まれ。「隠退教師を支える運動」推進員、碑文谷教会員。

40点牧師

新年合同礼拝の準備も60点信徒がドンドン働き、40点牧師はうろろうしているだけ、暇だ。

結婚後は住まいの近く東京・稲城教会に通った。4人の子育てと重なる教会生活、細川静牧師から教員として良い訓練を受けた。身に付けていた和文タイピの技術は、やがてワープロによる週報や月報、教会のあらゆる印刷・発行人物に生かされた。

至らなかつた。22歳、結婚を機に洗礼を受けるのは今しかない、ためらっていた受洗を申し出た。新栄教会で本田清一牧師より受洗した。